

円債くん

[愛称]



東京海上・円建て投資適格債券ファンド (毎月決算型)

追加型投信／国内／債券

- ・本書は金融商品取引法(昭和23年法律第25号)第13条の規定に基づく目論見書です。
- ・ファンドに関する投資信託説明書(請求目論見書)を含む詳細な情報は委託会社のホームページで閲覧、ダウンロードすることができます。
- ・本書には約款の主な内容が含まれていますが、約款の全文は請求目論見書に掲載されています。

■ 委託会社【ファンドの運用の指図を行う者】

東京海上アセットマネジメント投信株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第361号

■ 受託会社【ファンドの財産の保管及び管理を行う者】

三菱UFJ信託銀行株式会社

ファンドに関するお問い合わせ先

東京海上アセットマネジメント投信株式会社
ホームページ <http://www.tokiomarineam.co.jp>

サービスデスク **0120-712-016**

※土日祝日・年末年始を除く9時～17時

ご購入に際しては、本書の内容を十分にお読みください。

- ・本書により行う「東京海上・円建て投資適格債券ファンド(毎月決算型)」(以下「当ファンド」といいます。)の受益権の募集については、委託会社は、金融商品取引法第5条の規定により有価証券届出書を2011年6月23日に関東財務局長に提出しており、2011年6月24日にその効力が生じています。
- ・当ファンドの内容に関して重大な変更を行う場合には、投資信託及び投資法人に関する法律に基づき事前に受益者の意向を確認する手続きを行います。
- ・当ファンドの信託財産は信託法に基づき受託会社において分別管理されています。
- ・請求目論見書は、販売会社にご請求いただければ当該販売会社を通じて交付いたします。なお、請求目論見書をご請求された場合は、その旨をご自身で記録しておくようにしてください。

商品分類			属性区分			
単位型・追加型	投資対象地域	投資対象資産 (収益の源泉)	投資対象資産	決算頻度	投資対象地域	投資形態
追加型	国内	債券	その他資産(投資信託 証券(債券(社債)))	年12回 (毎月)	日本	ファミリーファンド

※商品分類及び属性区分の定義につきましては、社団法人投資信託協会のホームページ[<http://www.toushin.or.jp/>]をご参照ください。

委託会社の情報

委託会社名：東京海上アセットマネジメント投信株式会社
 設立年月日：1985年12月9日
 資本金：20億円 (2011年4月末現在)
 運用する投資信託財産の
 合計純資産総額：1兆6,321億円 (2011年4月28日現在)

ファンドの目的・特色



ファンドの目的

主として「東京海上・円建て投資適格債券マザーファンド」(以下「マザーファンド」ということがあります。) 受益証券に投資を行い、安定した収益の確保と信託財産の中長期的な成長を目標として運用を行います。

ファンドの特色

1 円建ての社債を中心に投資します

- 実質的に、わが国の法人が発行する円建ての社債を中心に投資を行い、安定した収益の確保と信託財産の中長期的な成長を目標として運用を行います。
- 日本円で発行する債券に投資を行いますので、為替変動リスクがありません。

<投資する債券の範囲>

- 主としてわが国の法人が発行する円建ての社債(金融機関劣後債、生保基金債などを含みます。)を中心に投資を行います。
- ポートフォリオ利回り向上のため、社債以外の円建ての債券などにも幅広く投資を行う場合があります。
- 流動性確保の観点から、国債や地方債などに投資を行う場合があります。

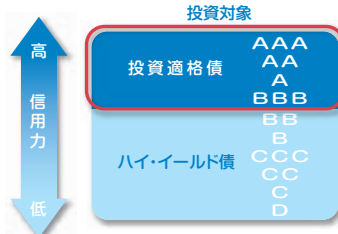
2 投資する債券は投資適格の債券とします

- 投資する債券は、取得時において投資適格相当以上の格付けを取得している債券※¹、もしくはそれらと同等の信用力を有すると考えられる債券※²を投資対象とします。

※¹ Moody's社、S&P社、R&I社、JCR社、Fitch社(2011年4月現在)のいずれかからBBB格相当以上の格付けを取得しているもの

※² 無格付の地方債・政府保証債など

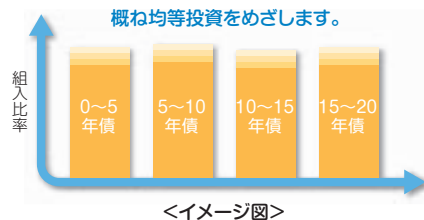
<格付(S&P社)と信用力>



3 残存年限の異なる債券に分散投資します

- 当ファンドでは、投資する債券の残存年限を幅広く分散させることにより、できる限り金利変動リスクを平均化させ、安定した収益の確保を目指します。

※一般的に、残存期間が長い債券ほど金利変動時の価格変動が大きくなる傾向にあります。



<イメージ図>

4 毎月分配です

- 毎月23日(休業日の場合は翌営業日)を決算日とし、原則として、毎決算時に安定した分配を継続的に行うことを目指します。

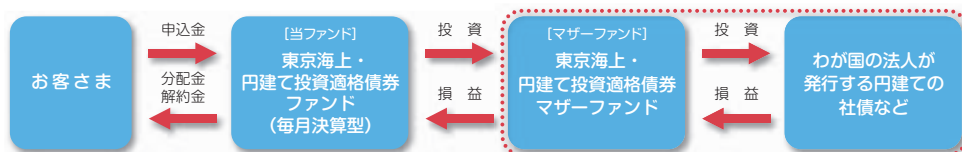
※分配対象額が少額の場合などには、分配を行わないことがあります。

<イメージ図>



※上図は将来の収益分配をお約束するものではありません。実際の分配金額は運用実績に応じて決定されます。

ファンドのしくみ



※資金動向や市況動向、残存期間などの事情によっては、上記の運用ができない場合があります。

主な投資制限

- ・株式への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。(ただし、転換社債の転換、新株引受権の行使および新株予約権の行使により取得する場合に限ります。)
- ・外貨建資産への投資は行いません。

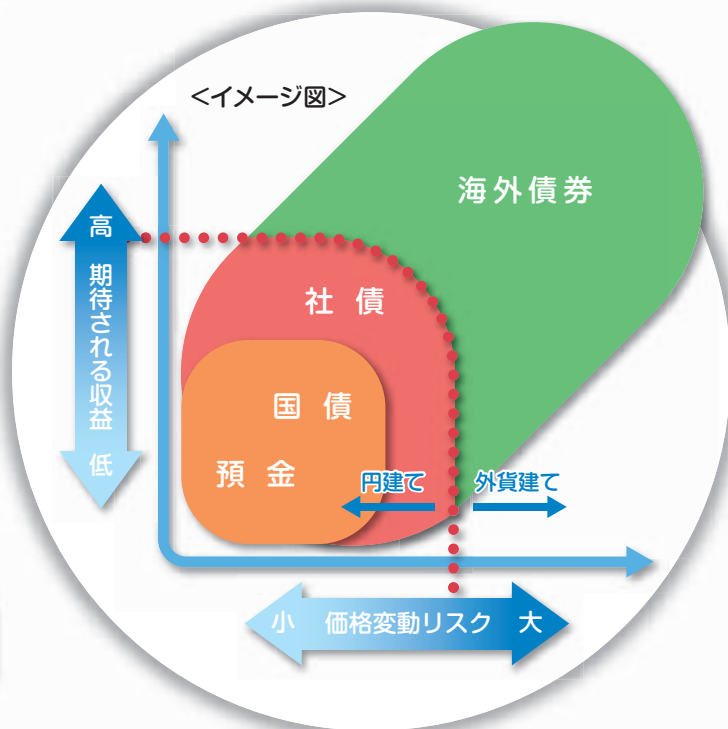


円建て社債の特徴

- 事業会社が発行する債券は、償還までの期間がそれぞれ異なります。利率は、債券を発行する時点の金利水準を基に発行体の信用状況に応じて決定されます。
- 一般的に、同じ発行時期で比較した場合、社債の利率は、償還までの期間が同じ預金金利や国債の利率より高くなる傾向にあります。
- ただし、社債の発行会社が破たんした場合は、デフォルト（債務不履行）になるおそれがあります。その場合、投資した資金が回収できないことがあります。

社債投資は、個別債券の分析が重要です。

- 社債に投資を行うに当たっては、個別債券の精緻なクレジット分析（信用調査）が重要となります。
- 東京海上アセットマネジメント投信では、格付会社で勤務実績のあるスタッフやクレジット分析に長年の業務経験と実績を有するスタッフで構成されるクレジットチームが、クレジット分析を担当します。



※上図は、一般的な各資産の関係を示したものであり、必ずしもこのようになるとは限りません。また、元本や将来の成果を示唆・保証するものではありません。

用語解説

【社債の利回りについて】

- 一般的に、発行体（企業など）の信用度や市場での流動性などのリスクが、国債と社債の利回り格差になります。
- 発行体の信用度の違いなどに応じて、利回り格差は異なります。

【格付けについて】

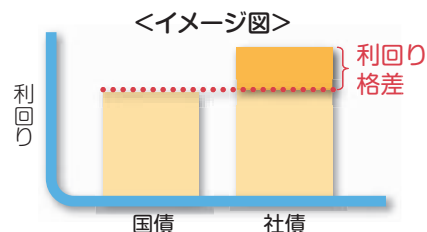
- 格付機関が金融機関を含めた社債などの発行会社について、債務の支払能力などを評価するものです。
 - 一般的に、投資適格債は元本や利息の支払いが相対的に安全であると評価されている債券で、S&P社などの格付機関により、BBB格以上と格付けされた債券のことを指します。
- また、BB格以下と格付けされた債券はハイ・イールド債と呼ばれています。

【金融機関劣後債】

- 銀行の自己資本比率を高めることを目的に発行される債券で、一般の債権者よりも債務弁済の順位が劣る社債のことです。

【生保基金債について】

- 生命保険会社の基金（株式会社という資本金）を裏づけとして発行される証券のことです。





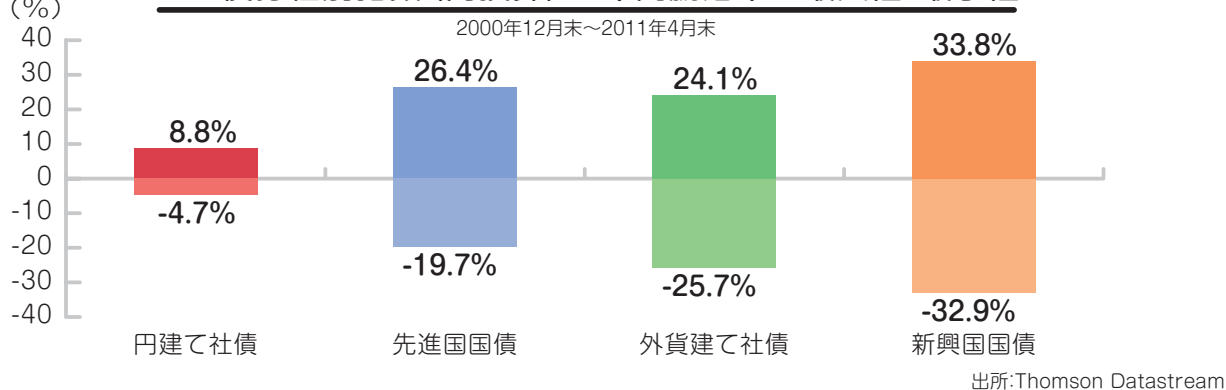
相対的に安定した値動き

- 円建て社債への投資には、外貨建て債券への投資とは異なり為替変動リスクがないため、外貨建て社債や先進国の国債、新興国の国債に比べて、相対的に安定した値動きとなっています。

主な債券種別指数（円換算）の推移



主な債券種別指数（円換算）の年間騰落率の最大値・最小値

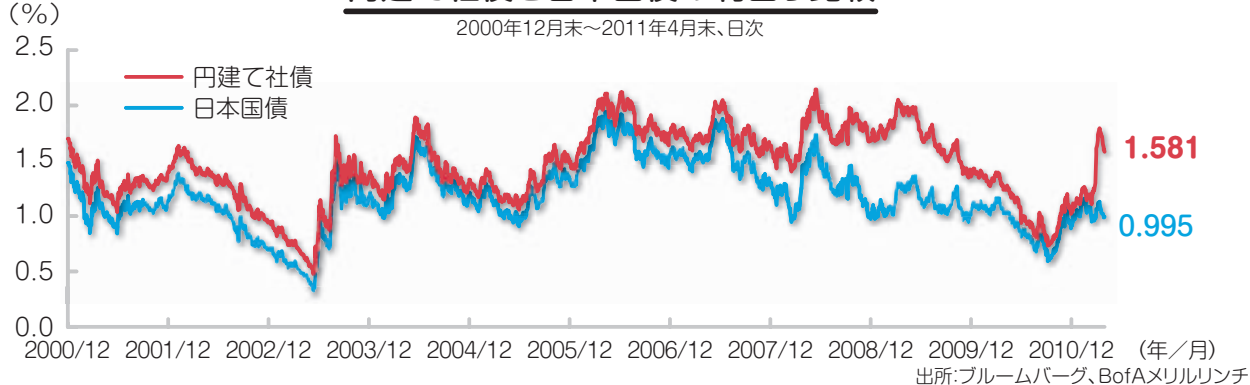


円建て社債：BofAメリルリンチ日本社債インデックス（7-10年）
 外貨建て社債：シティグループ世界債券インデックス社債セクター（除く日本、円換算）
 先進国国債：シティグループ世界国債インデックス（除く日本、円換算）
 新興国国債：JPモルガン EMBIグローバル・ディバーシファイドインデックス（円換算）

相対的に高い利回り

- 過去において、円建て社債は日本国債に比べて、相対的に高い利回りとなっています。

円建て社債と日本国債の利回り比較



円建て社債：BofAメリルリンチ日本社債インデックス（7-10年）利回り
 日本国債：BofAメリルリンチ日本国債インデックス（7-10年）利回り

上記は過去の実績であり、将来の動向などを示唆・保証するものではありません。また、実際のファンドに組み入れる債券の利回りではありません。これらは、当ファンドの実績を示したものではありません。



基準価額の変動要因

- ・当ファンドは、主に国内の公社債など値動きのある証券を実質的な投資対象としますので、基準価額は変動します。したがって、当ファンドは**元本が保証されているものではありません**。
- ・委託会社の運用指図によって**信託財産に生じた利益および損失は、全て投資者に帰属します**。

当ファンドへの投資には主に以下のリスクが想定され、これらの影響により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

金利変動リスク	公社債は、一般に金利が上昇した場合には価格は下落し、反対に金利が下落した場合には価格は上昇します。したがって、金利が上昇した場合、基準価額が下落する要因となります。
信用リスク	一般に、公社債や短期金融商品などの発行体にデフォルト（債務不履行）が生じた場合、またはデフォルトが予想される場合には、当該公社債などの価格は大幅に下落することになります。したがって、組入公社債などにデフォルトが生じた場合、またデフォルトが予想される場合には、基準価額が下落する要因となります。
流動性リスク	受益者から解約申込があった場合、組入資産を売却することで解約資金の手当てを行うことがあります。その際、組入資産の市場における流動性が低いときには直前の市場価格よりも大幅に安い価格で売却せざるを得ないことがあります。この場合、基準価額が下落する要因となります。
劣後債など固有のリスク	劣後債はデフォルトが生じた場合、元利金の支払順位が一般の社債よりも低い社債です。繰上償還条項が設定されている劣後債などが、市況動向などにより繰上償還が実施されない場合や繰上償還されないと予想される場合には、当該証券の価格が大きく下落する可能性があります。また、利息や配当の支払繰延条項がある場合は、発行体の業績の著しい悪化などにより、支払いが繰り延べられる可能性があります。

その他の留意点

- ・当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。
- ・当ファンドは、ファミリーファンド方式で運用を行います。そのため、当ファンドが投資対象とするマザーファンドを投資対象とする他のベビーファンドに追加設定・解約等に伴う資金変動などがあり、その結果、当該マザーファンドにおいて売買等が生じた場合などには、当ファンドの基準価額に影響を及ぼす場合があります。
- ・当ファンドは、計算期間中に発生した運用収益（経費控除後の配当等収益および売買益（評価益を含みます。）など）を超えて分配を行う場合があります。したがって、当ファンドの分配金の水準は必ずしも計算期間における当ファンドの収益率を示すものではありません。
投資者の個別元本（追加型投資信託を保有する各投資者の取得元本）の状況によっては、分配金の一部または全額が、実質的に元本の一部払戻しに相当する場合があります。
分配金は当ファンドの純資産総額から支払われますので、分配金支払い後の純資産総額は減少することとなり、基準価額が下落する要因となります。計算期間中の運用収益を超えて分配を行う場合、当期決算日の基準価額は前期決算日の基準価額と比べて下落することになります。

リスクの管理体制

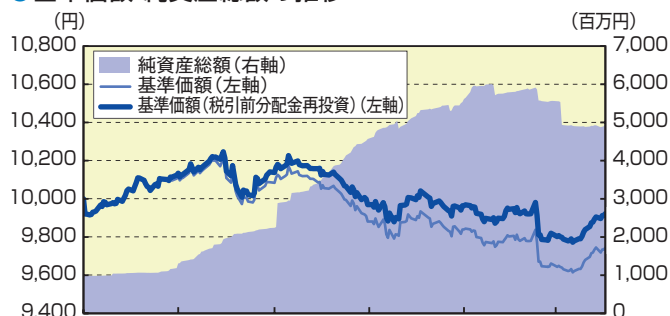
委託会社のリスク管理体制は、担当運用部が自主管理を行うと同時に、担当運用部とは独立した部門において厳格に実施される体制としています。法令等の遵守状況についてはコンプライアンス部門が、運用リスクの各項目および運用ガイドラインの遵守状況については運用リスク管理部門が、それぞれ適切な運用が行われるよう監視し、担当運用部へのフィードバックおよび所管の委員会への報告・審議を行っています。これらの内容については、社長をはじめとする関係役員に随時報告が行われるとともに、内部監査部門がこれらの業務全般にわたる運営体制の監査を行うことで、より実効性の高いリスク管理体制を構築しています。



2011年4月28日現在

基準価額、パフォーマンスなどの状況

●基準価額・純資産総額の推移



※基準価額は信託報酬控除後のものです。後述の信託報酬に関する記載をご覧ください。

※上記グラフは過去の実績であり、将来の運用成果をお約束するものではありません。

※基準価額は1万口当たりで表示しています。

※設定日は2010年5月28日です。

●基準価額・純資産総額

基準価額	9,744円
純資産総額	4,973百万円

●騰落率(税引前分配金再投資、%)

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
ファンド	+1.27	-0.42	-2.03	-	-	-0.78

※ファンドの騰落率は、税引前分配金を再投資したものと計算しているため、実際の投資家利回りとは異なります。

●分配の推移(1万口当たり、税引前)

2010/6	2010/7	2010/8	2010/9	2010/10	2010/11	2010/12
-	18円	18円	18円	18円	18円	18円
2011/1	2011/2	2011/3	2011/4	2011/5	設定来累計	
18円	18円	18円	18円		180円	

※分配金額は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。

※分配対象額が少額の場合などには、分配を行わないことがあります。

主要な資産の状況

当ファンドは、ファミリーファンド方式により運用を行っており、マザーファンドの資産の状況を記載しています。

●債券種別組入構成比率

種別	比率(%)
国債	4.0
地方債	8.1
政府保証債・特殊債	13.4
金融債	0.0
社債・その他債券	72.4
短期金融資産など	2.1
合計	100.0

※短期金融資産などは、組入有価証券以外のものです。

※比率は純資産総額に占める割合です。

●保有債券の属性情報

平均残存期間(年)	10.12
平均修正デュレーション(年)	8.75
平均クーポン(%)	2.14
平均利回り(複利、%)	1.39
平均利回り(直利、%)	2.05
平均格付け	A

※途中償還などを考慮して計算しています。

※保有債券の時価総額を基に計算しています。

※格付けは、Moody's社、S&P社、R&I社、JCR社、Fitch社のうち、上位のものを使用しており、+-等の符号は省略して表示しています。

※平均格付けは、格付毎に点数化(例えばAAA格は6、AA格は5など)し、加重平均した結果を切り捨てて表示しており、当ファンドの格付ではありません。

●残存年限別構成比率

残存年限	比率(%)
5年未満	24.8
5年以上～10年未満	28.0
10年以上～15年未満	26.2
15年以上～20年未満	21.0
20年以上	0.0

※途中償還などを考慮して計算しています。

※保有債券の時価総額を基に計算しています。

●格付別構成比率

格付	比率(%)
AAA格	15.9
AA格	38.2
A格	37.6
BBB格	5.1
その他	3.3

※比率は保有債券の時価総額に占める割合です。

※格付けは、Moody's社、S&P社、R&I社、JCR社、Fitch社のうち、上位のものを使用しており、+-等の符号は省略して表示しています。

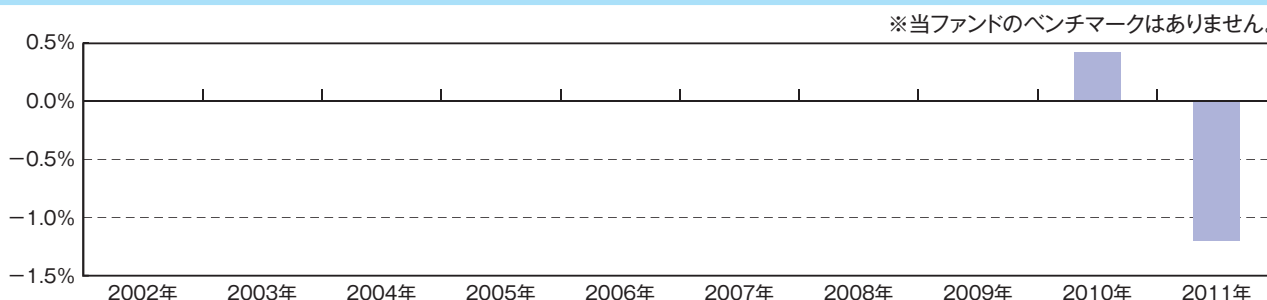
●組入上位10銘柄

	銘柄名	クーポン(%)	償還日	比率(%)
1	第125回利付国債(20年)	2.20	2031/3/20	2.5
2	第17回富士通株式会社無担保社債	3.00	2018/5/8	1.8
3	第64回東京急行電鉄株式会社無担保社債	2.70	2023/6/6	1.8
4	第6回東海旅客鉄道株式会社無担保普通社債	2.39	2022/2/15	1.8
5	第34回東日本旅客鉄道株式会社無担保普通社債	2.53	2024/6/20	1.8
6	第11回独立行政法人福祉医療機構債券	2.57	2026/3/20	1.8
7	第4回株式会社りそな銀行無担保社債(劣後特約付)	2.766	2019/6/20	1.8
8	第49回伊藤忠商事株式会社無担保社債	2.28	2018/6/20	1.8
9	第3回新日鉄ホールディングス株式会社無担保社債	2.32	2018/6/15	1.7
10	第23回株式会社三菱東京UFJ銀行無担保社債(劣後特約付)	2.91	2029/10/16	1.7

※比率は純資産総額に占める割合です。

組入銘柄数 59

年間収益率の推移



※ファンドの収益率は、税引前分配金を再投資したものと計算しており、設定日以降を表示しています。

※設定年は設定時と年末の騰落率です。当年の騰落率は昨年末と基準日の騰落率です。

※上記は過去の実績であり、将来の動向などを示唆・保証するものではありません。

※最新の運用実績は、委託会社のホームページでご確認いただけます。

※ファンドの運用実績はあくまで過去の実績であり、将来の運用成果を約束するものではありません。



お申込みメモ

購入単位	販売会社やお申込みのコースなどによって異なります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
購入価額	購入申込受付日の基準価額
購入代金	販売会社所定の期日までに販売会社にお支払いください。
換金単位	販売会社やお申込みのコースなどによって異なります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
換金価額	換金請求受付日の基準価額
換金代金	原則として、換金請求受付日から起算して、5営業日目からお支払いします。
申込締切時間	原則として午後3時までとします。受付時間を過ぎてからのお申込みについては、翌営業日受付の取扱いとなります。
購入の申込期間	2011年6月24日から2012年6月22日まで 原則として、申込期間中の毎営業日にお申込みを受け付けます。 ※申込期間は、上記期間満了前に委託会社から有価証券届出書を提出することにより更新されます。
換金制限	信託財産の資金管理を円滑に行うため、大口解約には制限を設ける場合があります。
購入・換金申込受付の中止及び取消し	取引所における取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金のお申込みの受付を中止することおよび既に受け付けた購入・換金のお申込みの受付を取り消すことがあります。
購入・換金申込不可日	ありません。
信託期間	原則として、2010年5月28日から無期限です。
繰上償還	信託期間中において、信託契約の一部を解約することにより受益権の総口数が10億口を下回ることとなったとき、信託契約を解約することが受益者のため有利であると認めるとき、またはやむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意のうえ、信託契約を解約し、信託を終了させることがあります。
決算日	毎月23日(月1回。ただし、当日が休業日の場合には翌営業日とします。)
収益分配	年12回の決算時に収益分配方針に基づき、収益分配を行います。 ※当ファンドには、「分配金受取りコース」と「分配金再投資コース」があります。なお、販売会社により取扱うコースが異なる場合がありますので、詳しくは販売会社にお問い合わせください。
信託金の限度額	1兆円を上限とします。
公 告	委託会社が受益者に対してする公告は、日本経済新聞に掲載します。
運用報告書	3月・9月のファンドの決算時および償還時に、運用報告書を作成し、知れている受益者に対して、販売会社から、あらかじめ申し出いただいたご住所にお届けします。
課税関係	課税上は株式投資信託として取扱われます。益金不算入制度および配当控除の適用はありません。

ファンドの費用・税金

● ファンドの費用

<投資者が直接的に負担する費用>

購入時手数料	購入価額に1.05%(税抜1%)の率を乗じて得た額を上限として販売会社が個別に定める額とします。 詳しくは販売会社にお問い合わせください。 ※分配金再投資コースの収益分配金の再投資により取得する口数については、手数料はありません。
信託財産留保額	ありません。

<投資者が信託財産で間接的に負担する費用>

運用管理費用 (信託報酬)	信託財産の純資産総額に以下の信託報酬率を乗じて得た金額を計算期間を通じて毎日計上し、毎計算期末または信託終了の時に信託財産中から支弁します。 信託報酬率は、毎年3月および9月の各計算期末において見直すこととし、各前月末における日本相互証券株式会社の発表する新発10年固定利付国債の利回り(終値)に応じて以下の通り決定され、当該計算期末の翌日から適用するものとします。				
	新発10年固定利付国債の利回り	委託会社	販売会社	受託会社	合計
	3%未満の場合	年0.2625% (税抜0.25%)	年0.2625% (税抜0.25%)	年0.021% (税抜0.02%)	年0.546% (税抜0.52%)
	3%以上4%未満の場合	年0.315% (税抜0.3%)	年0.315% (税抜0.3%)	年0.021% (税抜0.02%)	年0.651% (税抜0.62%)
	4%以上5%未満の場合	年0.3675% (税抜0.35%)	年0.3675% (税抜0.35%)	年0.021% (税抜0.02%)	年0.756% (税抜0.72%)
	5%以上の場合	年0.42% (税抜0.4%)	年0.42% (税抜0.4%)	年0.021% (税抜0.02%)	年0.861% (税抜0.82%)
その他の費用・手数料	信託財産の財務諸表の監査に要する費用(純資産総額に対し、税込年率0.0105%(上限年63万円))、信託事務などに要する諸費用、立替金の利息、組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料、先物・オプション取引に要する費用、外国における資産の保管などに要する費用および借入金の利息等が保有期間中、その都度かかります。 ※監査費用を除くこれらの費用は実際の取引などにより変動するため、事前に料率、上限額等を表示することができません。				

上記手数料等の合計額については、保有期間などに応じて異なりますので、あらかじめ表示することができません。

● 税金

税金は表に記載の時期に適用されます。

以下の表は、個人投資者の源泉徴収時の税率であり、課税方法などにより異なる場合があります。

時期	項目	税金
分配時	所得税および地方税	配当所得として課税…普通分配金に対して10%
換金(解約)時および償還時	所得税および地方税	譲渡所得として課税…換金(解約)時および償還時の差益(譲渡益)に対して10%

※上記は、2011年4月末現在のものですので、税法が改正された場合などには、税率等が変更される場合があります。

※法人の場合は上記とは異なります。

※税金の取扱いの詳細については、税務専門家などにご確認されることをお勧めします。